

令和5年10月2日

56期となりました。ということは、当社は55周年を迎えたこととなります。あの50周年からもう5年経った、と言いたいところですが、「あの」といえる程50周年は大したことはできませんでした。むしろ、あの40周年から15年経ったと言った方がしっくりくる人も多いかもしれません。40周年はホテルに全員集まって記念パーティーをしましたからね。その印象が強いついていう人も多いことでしょう。

やはりそういう記憶に残るイベントは良いものだなあ、ということで、この55周年も、みんなが一堂に会するイベントをやりたいなあと思っています。目的としては、全社的にコミュニケーションを取る機会を創りたいということです。現行の中期経営計画におけるスローガン、「チェンジ・チャレンジ・コミュニケーションのトリプル“C”で持続的成長へ」のコミュニケーションの集大成を計画最終期である今期で果たしたいわけであります。

さて、ここまで、コミュニケーションということでは、社内外との会話の頻度を上げることに重点を置いていました。このコミュニケーションの頻度、つまり量を追っていくことは重要ではあるのですが、それだけではなくて今期はコミュニケーションの「質」を追求していきたいと思っています。

「質」とは何ぞや？ となるのですが、ここでは「伝える」から「伝わる」への意識変化とします。「伝える」というのは発信者からの一方的な伝達ですが、これだと受信者に伝わったかどうかは分かりません。伝わってなければ、コミュニケーションは成立していないということになります。発信者が伝え、受信者に伝わることで情報の共有がなされて初めてコミュニケーションと言えます。この、「伝える」だけで終わったことで起こった事故も少なくありません。事故防止だけの目的ではありませんが、伝えるから伝わるへの意識変化は、会社の発展につながっていきます。ぜひ、今期はこの意識でやっていきましょう。

以上

代表取締役社長 角高哲治